



頑張れ新人

「見えない不安」を真新しいスーツで包んだ、新しく採用された職員がまぶしく映ります。悩みや苦しみもあるうけれども、「頑張れ」と応援しなくなりません。はつらつとした言動、礼儀正しさをいつまでも失わないで欲しいと思いつつ、その謙虚な振る舞いを自分自身への教訓とすることです。

「苦勞を楽しむ」
約30年間にわたって社長や会長として旭化成を引っ張った宮崎輝さんが、若い社員に伝えた言葉です。

地域と密着した事業展開に心を配り、猛烈な勉強家として知られた人です。「仕事は他人から与えられるものではない。いつも自ら問題点を分析し、解決していく姿勢を忘れてはいけない」「これを苦しいと思ってしまうたら、仕事などできない。仕事は困難の連続。苦勞を楽しんでこそ立派

な仕事もできる」。趣味が「仕事」というように、さも楽しんでに仕事に対する心構えについてこのように述べておられます。厳しくも説得力のある指摘です。

仕事に苦しみはつきもの。試験に直面したときどんな姿勢で臨むか。前向きに挑戦するか、腰が引けるか。その差は大きいものがあります。「乗り越えられない試験などない。苦しさを超えるな」。宮崎さんの言いたかったのはこのことではないでしょうか。

苦しいことだってあるさ人間だもの まよふときだってあるさ凡夫だもの あやまちだってあるよ おれだもの
詩人で書家の相田みつをさんの言葉です。多くの若者が新社会人として巣立っていききました。きっと緊張感や不安で肩にも力が入っていることでしょう。今、「職」をめぐる環境や若者の価値観は劇的に

変化しています。だが、その中でも苦しさに負けない気概だけは忘れないでほしいと願うのは私だけではありません。
念ずれば花ひらく

「苦しいとき 母がいつも口にしていた このことばをわたしも いつのころからかとなえるようになった そうして そのたび わたしの花がふしぎと ひとつひとつひらいていった」

仏の道に根ざした多くの作品を長年紡ぎ続けた坂村貞民さかむらじみんさんの詩です。

さあ元気に歩こう。
「最もよく人を幸福にする人が、最もよく幸福になれる」のだから。

指宿市長 豊留悦男

